

現在のベトナムにとってのベトナム戦争と米国

古田元夫

1. ベトナムにとってのベトナム戦争

今日のベトナムでは、ベトナム戦争は抗米救国闘争と呼ばれ、ベトナムの南北統一事業の前進に米国が立ちふさがった時代という意味で、1954年のジュネーヴ協定による南北分断から75年のサイゴン解放までの時期を、抗米救国闘争期とする。いうまでもなく、この抗米救国闘争という意味でのベトナム戦争は、統一ベトナム＝ベトナム社会主義共和国の成立をもたらした戦争であり、現在の共産党政権の正統性の根拠となった戦争である。このような抗米救国闘争の意義は、毎年四月三〇日の南部解放記念行事や、国定の歴史教科書の中で、繰り返し語られている。また、世界最強の米国を敗北させたという誇りは、米国と戦った側のベトナム人の中には、広く共有されているとあってよいだろう。

ベトナムにとってこの戦争は、もう一面ではきわめて犠牲の大きな戦争でもあり、あらゆる立場でのベトナム側の戦争犠牲者は、ベトナム政府の公式の見解で300万人、行方不明者も約30万人に達するといわれている。また、米軍が散布した枯葉剤後遺症の被害者は100万人にのぼるといわれており、二世、三世など後の世代への影響も15万人に及んでいるといわれる。

もっとも、現在のベトナムにとって、ベトナム戦争に過度にこだわることは、国の事業にとってはマイナスになる側面がある。まず、国際的な面から見れば、米国、韓国、フィリピン、タイ、オーストラリア、ニュージーランドといったベトナム戦争参戦国は、アジア・太平洋地域で重要な位置を占める国々であり、これらの国々との関係改善なくしてはベトナムの経済発展はありえない。1991年に、それまでのソ連との関係を基軸とする外交から全方位外交への転換したベトナムは、「過去を閉ざし未来を志向する」という外交スローガンを掲げ、ベトナム戦争参戦国を含む20世紀にベトナムに軍隊を送り込んだ国々との関係を正常化していった。1995年の米越国交正常化をもって、ベトナムは世界の主要国家、周辺のアジア・太平洋地域の国家との関係を正常化し、経済発展を支える国際環境を手に入れることができたが、これは、ベトナムが、ベトナム戦争を含む過去にこだわらない姿勢を示した成果だった。

また、ベトナム戦争への過度のこだわりは、ベトナム人同士の分裂を招く面がある。ベトナム戦争は「内戦」ではなく、「ベトナム民族」が米国の侵略と戦った戦争であるというのが、正統的な抗米救国闘争史観だが、この戦争がベトナム人同士の戦いという側面をもっていたことは否定できない。旧サイゴン政権関係者の多くが、あるいは報復を恐れ、あるいは統一ベトナムでの差別に直面して、難民としてベトナムを脱出したことはよく知られている。統一直後のベトナムでは、抗米救国戦争にどのように関わったのかが、あらゆる面で問われ、人々を評価する際の基準とされた。しかし、南北の人々の間の融和をはかり、難民として国外に脱出した人々も含め、一人でも多くのベトナム人がベトナムの経済発展に貢献することを、ベトナムの国家が望むようになると、ベトナム戦争へのこだわ

りには歯止めをかけざるをえなくなる。ベトナムでは、1985年から、ベトナム戦争終結後国内にとどまっていれば愛国者と評価するべきだという発言が、共産党指導者からなされるようになり、1990年代以降になると、75年以降いかなる手段で外国にいった人でも——つまりは難民として国外に脱出した人であっても、現在のベトナムの建設に貢献する意思があれば愛国者として歓迎というのが、政府の公式の方針となった。ベトナム共産党の改革派の指導者だったヴォー・ヴァン・キェット (Vo Van Kiet) 元首相は、ベトナム戦争においてベトナム人同士が戦ったことの和解が重要であることを強調した人物としても知られている。¹⁾

ベトナム国内で長い間ジャーナリストとして活動していたファイ・ドゥック (Huy Duc) という人が、2012年に『勝利した側』というE-bookを米国で出版した。²⁾ この本は、旧サイゴン政権関係者の改造センターへの収容、華僑追放、難民流出、カンボジア問題など、1975年以降の統一ベトナムの「暗部」とでもいべき様々な問題に焦点をあわせたもので、ベトナム戦争の「勝者」が、本当に「勝者」に値するのかを鋭く問うた本で、ベトナム国内でも広く読まれている。

では、政府が国家的な要請から「過去を閉ざす」というスローガンを掲げた時、ベトナム戦争で多くの犠牲を強いられた国民の側は、それをどう受け止めているのだろうか。伊藤正子の近著『戦争記憶の政治学—韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題と和解への道』³⁾ は、ベトナム政府のこうした方針が、戦争で被害にあった人々の「記憶の統制」という機能を果たしているとしている。伊藤が指摘している側面があることは事実だが、政府のスローガンが、人々の感覚と大きく乖離しているわけではない。伊藤の著書にもあげてあるが、二人の知識人の発言を引用してみよう。一人目は、ベトナム歴史学会の事務局長を長年つとめ、現在は国会議員として活躍しているズオン・チュン・クオック (Duong Trung Quoc) という人物の発言である。

「20世紀だけでも、ベトナムは多くの国から侵略され、長年にわたって国を失い、幾多の戦争を経てきた。もし過去に囚われていると私たちベトナムは、誰と共生していけばいいのだろうか。ベトナムは過去を忘れないが、いつも未来に向かわなければならない。戦争と恨みのために失われた時間を償うために、和解と参入が求められている将来のために。…歴史上、民族間に戦争と恨みによって隔絶された深淵が生じることがある。それらの深淵は、塞いで忘却することもできるし、さらに深く掘って恨みを増すこともできる。しかしなすべきことは、その過去の中に元々あった事実をそのまま保ちながら、共に新たな架橋をして乗り越え、現在の利益のために、深淵を貴重な教訓として見ることである。」⁴⁾

¹⁾ ベトナムにおけるベトナム戦争総括については、拙稿「ベトナムにとってのベトナム戦争」『東南アジア——歴史と文化』No. 20 (1991年5月)、拙稿「ベトナムにおけるベトナム戦争の総括をめぐって」歴史学研究会編『20世紀のアメリカ体験』(青木書店、2001年)、および今井昭夫「歴史の力か、歴史の重荷か」今井昭夫・岩崎稔編『記憶の地層を掘る——アジアの植民地支配と戦争の語り方』(御茶の水書房、2010年)などを参照。

²⁾ Huy Duc, *Ben Thang Cuoc*, Oshin Book, 2012.

³⁾ 伊藤正子『戦争記憶の政治学』(平凡社、2013年)。

⁴⁾ 今井前掲書、265-66頁。

二人目は、ベトナム戦争を描く小説の作家のバオ・ニン (Bao Ninh) の発言である。

「ベトナム人は今日のこと、明日のことを話すのは好きなのですが、過去の戦争のことは繰り返したがりませんし、特に外国の人、ましてやベトナムを侵略した国の人には繰り返したがりません。…今日ベトナム人は過ぎ去った心痛む話を忘れようとするのはベトナム人の存在的本能、生理的要求に近いものです。なぜなら、もし忘れようとしなければ、どうして生きていけますか。おのれの数千年にもわたる歴史のなかで、ベトナム民族は外国の侵略軍を相手に絶えず戦わねばならなかったのです。」⁵⁾

政府が「過去を閉ざす」とし、一般民衆は「過去にこだわっている」というほど、単純な図式が存在しているわけではない。

2. クリントン大統領訪越と「過去を閉ざす」

2000年11月、ビル・クリントンが米国大統領としてはベトナム戦争後はじめてベトナムを訪問した。この時には、ベトナム側の反応として、若者を中心とする一般民衆の間では歓迎の気持ちを率直に表す空気が強かったのに対し、共産党や政府の指導者は、「抑制された歓迎」という姿勢をとった。⁶⁾

クリントン大統領は、ハノイ国家大学での演説でベトナム戦争に触れ、ワシントンのベトナム戦争記念碑の「壁の別の側」にはベトナム人300万人の犠牲者がいるとして、ベトナム側の被害にも言及しつつ、「この共有された苦悩が、われわれ両国の関係を他のものとは異なるものとしている」、「われわれは過去を変えることはできないが、未来を変えることはできる」として、未来志向の建設的な米越関係構築を訴えた。ここでは、クリントンの側が、「過去を閉ざし、未来を志向する」と呼びかけたわけである。

これに対して、レ・カー・フィエウ共産党書記長は、クリントンとの会見の席で、過去は変えられないが、その本質を正しく理解することが重要だとして、次のように発言した。

「私たちの侵略に反対する抵抗戦争は、私たちに民族独立、祖国統一、社会主義への前進をもたらしました。したがって、私たちにとっては、過去は、暗い、悲しい不幸な歴史の一頁だけであるわけではありません。……私たちにとって、過去は根であり、土台であり、現在と未来に向けての力でもあるのです。皆さんがベトナム戦争と呼んでいる戦争を、私たちは抗米救国戦争と呼んでいます。1954年のジュネーブ協定の後、私たちの国は、17度線を暫定軍事境界線として、一時的に二つの地域に分割されました。協定では、二年後に総選挙が行われることになっていましたが、ゴ・ディン・ジエム体制はこれを実施せず、氏の政権機構を使ってベトナム人民を殺害しました。さらに、人の話では、西半球のある国が、ベトナムの17度線を国境にしたいと望んだそうです。西半球のある国が私たちの17度線を国境にするなんて、あまりに筋が通らない話です。

⁵⁾ 伊藤前掲書、204頁。

⁶⁾ クリントン訪越に関しては、拙稿「ベトナムにおけるアメリカ」『歴史評論』第641号(2003年9月)を参照。

平和的な統一の道がたたれたため、私たちは解放戦争で国土の統一を求めざるをえなくなりました。これが、この戦争の根源です。…このような過去から、われわれは教訓を引き出し、過去に対する正しい責任を持たなければならないのです。」

フィエウ書記長は、「過去を直視しよう」、「忘れられない、誇るべき過去」を指摘したわけで、「過去を閉ざし、未来を志向する」という当時のベトナム外交の基調からすれば、異例の過去へのこだわりを示したものだ。これは、ベトナムにとってのベトナム戦争の重さを物語るものだったといえよう。

3. ベトナム戦争後の米越関係

次に、ベトナム戦争終結後の米越関係を概観しておきたい。⁷⁾

ベトナム戦争の終結直後、カーター政権のもとで米越関係の正常化が実現する可能性があった時期が、一時的ではあったが存在した。しかし、結局は、ベトナムと中国の関係がカンボジア問題などをめぐって悪化する中で、米国は米中正常化を優先し、ベトナムはソ越友好協力条約でソ連への傾斜を深め、カンボジアに軍を進攻させ、79年には中越戦争が発生するという状況のもとで、米越関係改善の可能性は失われ、80年代は両国関係は新冷戦下での対立状態におかれた。ベトナム難民を大量に受け入れた米国では、ベトナム戦争中の戦争捕虜・行方不明米兵(POW/MIA)問題でも、反ベトナムキャンペーンが展開された。

こうした米越関係に改善の兆しが生まれるのは、冷戦体制が崩壊する90年代になってからで、1990年9月29日には、グエン・コ・タック(Nguyen Co Thach)外相とベーカー国務長官と会談が行われ、翌91年には、マケイン(John McCain)、ケリー(John Kerry)両上院議員が、POW/MIA調査でベトナムを訪問し、ブッシュ政権は、ベトナムとの関係正常化の工程表を作成した。一方のベトナムも、86年にドイモイを開始して国際的孤立からの脱却による経済発展をめざし、91年にはソ連一辺倒から全方位外交への転換を表明し、「過去を閉ざし、未来を志向する」というスローガンのもと、米国との関係改善にも積極的意欲を示すようになった。

しかし、ベトナム戦争の記憶を引きずる米越関係には両国ともに慎重論が強かった。こうした状況を突破するには、クリントン大統領の決断が重要な役割を果たした。94年2月、ケリー上院議員が、ベトナムに米国の戦争捕虜は存在しないことを確認する発言を行ったのを受けて、同年3月、クリントン大統領は、ベトナムへの経済封鎖の解除を発表し、翌95年7月には米越国交正常化が成立した。その後も、両国の関係者の間でほぼ話がまとまっていた米越通商協定の調印が、99年9月には直前にベトナム共産党最高指導部の一部から慎重論が出て見送られるなど、ギクシャクした関係が続いたが、通商協定は2000年7月には締結され、これを受けて、先に述べたクリントン訪越が実現した。これですべて、米越関係は安定した軌道に乗ったのである。

この米越通商協定調印延期という出来事にも示されるように、20世紀中は、ベトナム

⁷⁾ 米越関係については中野亜里『現代ベトナムの政治と外交』(暁印書館、2006年)、Bui Thi Phuong Lan, *Quan He Viet Nam-Hoa Ky 1994-2010*, Nha xuat ban Khoa hoc xa hoi, 2011などを参照。

共産党指導部の中に、米国などを「帝国主義」と見なし、それよりは同じ社会主義を掲げる中国などとの関係を優先させるべきだという発想が存在していた。しかし中国の大国としての台頭の一方で、日米などとの関係が安定した軌道に乗ったこともあり、ベトナム共産党は、03年7月に開催された第九期第八回中央委員会総会で、新しい外交方針を提起した。それは、「各国のわが国に対する利益を互いに織りあわせて、対立、孤立、あるいは隷属といった事態に陥らないようにする」という発想から、イデオロギー面での「友と敵」という論理ではなく、課題や局面ごとの「パートナー」という論理で大国との関係を律していくことを確認したもので、ようするに米中日などの大国の影響力をうまくバランスすることで、ベトナムの自律と安全を確保するという方針であった。⁸⁾

米越通商協定の調印や、こうしたベトナム側の変化もあって、21世紀に入ると米越貿易は急激な拡大を見せ、表①にあるように、05年には米国はベトナムの最大の輸出相手国となった。この米越経済関係の発展は、ベトナムのWTO加盟交渉にも有利に作用し、ベトナムは07年は加盟を達成した。

表①ベトナムの輸出の推移 (ベトナム統計総局資料より古田作成)

ベトナムの輸出先 (1995 - 2010)

年	1995	2000	2005	2010
米国	169.7	732.8	5924	14238.1
米国%	3.11%	5.06%	18.26%	19.71%
日本	1461	2575.2	4340.3	7729.7
中国	618.6	1852.3	3581.2	9207.1
ASEAN	996.9	2619	5743.5	10314.7
総量	5448.9	14482.7	32447.1	72236.7

★単位は百万米ドル、米国%は輸出総量に占める米国の比率

このように経済関係は比較的順調に発展したが、政治面では、ベトナムの人権や民主主義をめぐる問題が、しばしば両国関係の発展の障害となっていた。

米越関係を、政治や安全保障という領域でも発展させようとする試みが本格化するの、両国間で政治・安全・国防に関する戦略的対話が始まる08年からである。10年には、米国防総省報告が、インドネシア、マレーシアとともに、ベトナムとも戦略的関係発展させるべきという認識を示し、同年10月にはヒラリー・クリントン国務長官が、米越の「戦略的パートナーシップ」を提唱した。これに対して、同年11月には、ベトナムのグエン・ミン・チュエット (Nguyen Minh Triet) 大統領が、TPP交渉への参加の意向を表明した。

13年7月のベトナムのチュオン・タン・サン (Truong Tan Sang) 大統領訪米に際しては、オバマ大統領との間で、「戦略的パートナーシップ」という合意が成立するのではないか

⁸⁾ 拙稿「ベトナム共産党の綱領改訂案をめぐって」『アジア・アフリカ研究』第50巻第4号(2010年10月) 参照。

という観察があったが、結局合意されたのは、「包括的なパートナーシップ (Comprehensive partnership)」だった。これは、両国関係を、経済関係以外の分野でも包括的に発展させることを約したものではあったが、なお「戦略的パートナーシップ」とするには、両国関係が成熟していないことを示すもので、米国側はベトナムとのもう一步の関係深化が必要と考えているのに対し、ベトナム側にも米国との軍事関係強化にはなお懸念があるといわれている。⁹⁾

4. ベトナム社会におけるベトナム戦争

最後に、現在のベトナム社会におけるベトナム戦争に絡む問題の諸相を検討しておきたい。

(1) 行方不明者の情報、遺骨収集

ベトナム戦争では、ベトナム人の間に30万人にのぼる行方不明者が出ている。ベトナム政府が80年代後半以降、米軍のMIAの搜索への協力を本格化したことが、改めてベトナム側の行方不明者問題への注意を喚起した面がある。ベトナム側は、88年～13年の25年間で945体の米兵の遺骨を米国側に引き渡しているが¹⁰⁾、これだけのことを米国に対してするならば、もっとベトナム人の不明者搜索の努力をきちんとすべきだという世論が盛り上がり、国内のベトナム人の生活に余裕ができる21世紀に入った時期から、かつての従軍者だけでなく、「ベトナム戦後世代」を中心にした、戦死者の情報、遺骨収集のボランティア団体が誕生するようになった。2004年にハノイ国家大学の数学・情報学科の卒業生が設立した行方不明烈士の情報収集のフォーラム (Trung tam Nhan tim dong doi, <http://www.nhantimdongdoi.org>) や、10年に結成された人民軍退役中将を会長とするベトナム烈士家族援護会 (Hoi ho tro gia dinh liet si Viet Nam, <http://trianlietsi.vn>) などが、その代表例である。ベトナム政府の公表によると、2013年暮れ現在、墓が確認されている「烈士」(現体制の側でベトナム戦争を戦った戦死者) は939,462名で、なお20万人が不明であり、2020年に向けてその搜索を強化することになっている。¹¹⁾ この遺骨搜索には、あやしげな「占い師」まで横行し、「烈士」の遺骨探しには、社会的な関心がそれなりに集まるようになってきている。

こうした状況が生まれる以前の96年に、レ・ホアン (Le Hoang) 監督による映画「サイゴンからの旅人」が作成された。これは、次のようなあらすじの映画である。

ベトナム戦争中にサイゴン市内の戦闘で戦死した、北部出身の兵士の遺骨を、戦後20数年ぶりにかつての戦友が発見し、遺骨を北部の農村に住む兵士の遺族に送り届けることをテーマにしている。ストーリーが展開されていくのは、平和が回復し、戦争の影が表面的には感じられなくなっているベトナムである。主人公の戦士した戦友の遺骨へのこだわ

⁹⁾ Carlyle. A. Thayer, Carlyle. A. Thayer 2013, “Vietnam: Assessing President Truong Tan Sang’s Visit to the United States” <http://vietnamhumanrightsdefenders.net/2013/08/24>.

¹⁰⁾ XaLuan, “Ky niem 25 nam Viet-My hop tac tim kiem nguoi My mat tich” <http://www.xaluan.com/25-09-2013>.

¹¹⁾ Chinh phu, “Tim kiem, quy tap hai cot liet si voi trach nhiem cao nhac” <http://baodientu.chinhphu.vn/20-12-2013>.

りも、一見、「時代遅れ」の過去へのこだわりのように思われ、冷たい視線を浴びることの多い中で、途中で出会った、旧サイゴン政権軍の兵士だった人物が示す、戦争体験者としての主人公の行動への共感や、北の故郷で息子の骨がかえってくることを待つ老母などの姿を通じて、戦後20年以上が経過したベトナム社会で、ベトナム戦争の体験がどのような意味をもっているのかを、静かに見つめた作品。

この映画は、ベトナムにおける行方不明者の搜索の対象が、現体制側の「烈士」に限定され、同じ問題をもつサイゴン政権軍の関係者には向けられていないことへの批判もこめられているように思われる。いずれにせよ、ここで取り上げられた戦死者の遺骨をめぐる物語は、ベトナムにおけるどこか遠慮がちなベトナム戦争の取り上げ方を象徴している。

あるベトナム人研究者の説では、75年のベトナム戦争終結以降に作成されたベトナム戦争映画は、米国では53本あるのに対して、ベトナムでは8本だけであるという。¹²⁾

(2) 枯葉剤、その他戦争被害

ベトナム国内での被害者が100万人に達するといわれる枯葉剤被害の実状の告発に、ベトナム政府は、当初、かなり慎重だった。ベトナム戦争直後の時期は、被害の深刻さゆえに、政府は国内でパニックが発生することを警戒していた面があるようである。また、90年代に対米関係が改善の方向に動き出してからは、枯葉剤問題の告発が、対米関係への「悪影響」を与えることを懸念していた。しかし、21世紀に入って、対米関係がそれなりに軌道に乗って、枯葉剤被害に言及することが、国交そのものに響く懸念はなくなる一方で、米国の人権外交への対抗上、ベトナム側からベトナム戦争被害を米国に訴えることに意味がある状況が生じ、ベトナムの被害で今日まで続く問題として枯葉剤と地雷の問題が目目されるようになった。こうした中で、04年には、「ベトナムエージェントオレンジ／ダイオキシシン被害者の会」(Hoi Nan nhan chat doc hoa hoc da cam/dioxin Viet Nam, <http://www.vava.org.vn>) という、国内のボランティア団体が、退役軍人会の支援のもとに結成され、国際的にベトナムの枯葉剤被害の実状を訴える活動に取り組むようになり、米軍が最初にベトナムで枯葉剤を散布した61年8月10日から50周年あたる11年からは、8月10日を「ベトナムダイオキシシン・デー」として国際的に呼応した取り組みがなされることをアピールするようになっていく。

ベトナム政府は、こうした枯葉剤被害のような人道的協力事業の国際的促進には積極的だが、外国NGOと連携した「告発型大衆運動」がベトナム国内で広がり、外交関係にも影響することを警戒しており、伊藤正子が描いているように、韓国NGOの韓国軍虐殺行為の発掘、糾弾運動に対しては、2000年代後半以降から冷たい姿勢を見せるようになっていく。¹³⁾

(3) 戦争の回想録

ベトナム戦争に関するベトナム国内で出版される回想録は、長い間、共産党や解放民族戦線の指導者や高級軍人という、この戦争で司令官的な役割を果たした人々の回想が大き

¹²⁾ Bui Thi Phuong Lan, 247.

¹³⁾ 伊藤前掲書。

な比重を占めてきた。¹⁴⁾しかし、90年代末以降からは、一兵士や一従軍医師としてこの戦争に参加した人の日記や回想も出版されるようになり、その中には「戦争を知らない」若者の間で、ベストセラーとなるような作品も出現した。代表例としては、レ・カオ・ダイ (Le Cao Dai) 『ホーチミン・ルート従軍記』(古川久雄訳、岩波書店、2009年)、ダン・トゥイー・チャム (Dang Thuy Tram) の日記『トゥイーの日記』(高橋和泉訳、経済界、2008年、ハノイ医科大学を卒業して女性医師として従軍し1970年戦死)、グエン・ヴァン・タック (Nguyen Van Thac) の日記『永遠の二十歳 (はたち)』(ベトナム語原本、2008年、ハノイ総合大学在学中の71年に入隊、72年に南で戦死) などがある。こうした作品は、いずれも、「生身の人間」の体験としてのベトナム戦争を、その苦悩も含め赤裸々に語ったもので、戦後40年近くを経過したベトナムでの若者への戦争体験の継承には、英雄物語だけでなく、こうした作品に示される「生身の人間」の戦争体験としての現実感が重要な役割を果たすようになっていると見るべきであろう。

(4) ベトナムにおけるベトナム戦争ベテラン

ここでは、現体制の側でベトナム戦争を戦ったベテラン達の役割を検討しておきたい。90年代初頭にソ連・東欧における社会主義体制が崩壊した際、ベトナムでは、「社会主義の旗はベトナムで守る」という式の、ある種の「草の根保守主義」が台頭した。こうした社会的風潮の基盤には、退役軍人が少なからぬ役割を果たした。

しかし、退役軍人の役割を、こうした「社会主義の堅持」や「現体制護持」という方向だけで見るには、一面的であるように思われる。

97年に、北部ベトナムの米どころタイビン省で、地方幹部の汚職・腐敗を糾弾する人々による、郡や村レベルの役所の焼き討ちなどの、大規模な騒擾事件が発生した。長らく共産党支配の基盤と見なされてきた北部の紅河デルタの農村で、こうした事態が発生したことは、共産党指導部に大きな衝撃をあたえた。¹⁵⁾政府は軍事弾圧はせず、党の中央幹部と丸腰の軍を投入して説得にあたり、なんとか事態を鎮静化したが、こうした住民運動の中核は、多くの場合、ベトナム戦争の退役軍人だった。北部に関していえば、現在の農家の大半は、抗仏戦争、抗米戦争の犠牲者を出した「烈士」家族で、農村に現政権が銃口を向けにくい構造が存在していたことが、こうした事態の展開を導いたと見てよいだろう。

この事件に衝撃を受けた共産党は、94年から掲げていた、ベトナムのめざす社会主義をわかりやすくしたスローガン「民が豊かで、国が強く、公平で文明的な社会」に、01年の第9回党大会から「民主」を加えて、「公平で民主的で文明的な社会」とすることにした。11年の第11回党大会からは、「民主」の順番が繰り上がり、現在では「民が豊かで、国が強く、民主的で公平で文明的な社会」とされるようになっている。こうした経緯を考えると、ベトナム戦争の退役軍人は、ある意味では、現在のベトナム社会の民主化を促進する役割もはたしているのである。

¹⁴⁾ 拙稿「解説」レ・カオ・ダイ著『ホーチミン・ルート従軍記』(古川久雄訳、岩波書店、2009年) 参照。

¹⁵⁾ タイビン事件に関しては、中野亜里『ベトナムの人権』(福村出版、2009年)、275-79頁参照。

【参考文献】

- 伊藤正子『戦争記憶の政治学』平凡社、2013年。
- 今井昭夫「歴史の力か、歴史の重荷か」今井昭夫・岩崎稔編『記憶の地層を掘る——アジアの植民地支配と戦争の語り方』御茶の水書房、2010年。
- 中野亜里『現代ベトナムの政治と外交』暁印書館、2006年。
——『ベトナムの人権』福村出版、2009年。
- 藤本博「ソンミ村虐殺40周年をめぐって」『歴史学研究』847号、2008年11月。
- 古田元夫「ベトナムにとってのベトナム戦争」『東南アジア——歴史と文化』No. 20, 1991年5月。
——「ベトナムにおけるベトナム戦争の総括をめぐって」歴史学研究会編『20世紀のアメリカ体験』青木書店、2001年。
——「ベトナムにおけるアメリカ」『歴史評論』第641号、2003年9月。
——「解説」レ・カオ・ダイ『ホーチミン・ルート従軍記』古川久雄訳、岩波書店、2009年。
——「ベトナム共産党の綱領改訂案をめぐって」『アジア・アフリカ研究』第50巻第4号、2010年10月。
- Bui Thi Phuong Lan 2011, *Quan He Viet Nam-Hoa Ky 1994-2010*, Nha xuất bản Khoa hoc xa hoi.
- Carlyle. A. Thayer 2013, “Vietnam: Assessing President Truong Tan Sang’s Visit to the United States” <http://vietnamhumanrightsdefenders.net/2013/08/24>.
- Chinhphu 2013, “Timkiem, quy tap hai cot liet si voi trach nhiem cao nhât” <http://baodientu.chinhphu.vn/20-12-2013>.
- Huy Duc, *Ben Thang Cuoc*, Oshin Book, 2012.
- XaLuan 2013, “Ky niem 25 nam Viet-My hop tac timkiem nguoi My mat tich, <http://www.xaluan.com/25-09-2013>.